

2025年3月期 第2四半期(中間期)決算説明会

2024年11月22日

I. サマリー	P.2
II. 2025年3月期第2四半期決算	P.6
III. 2025年3月期業績予想	P.17
IV. 中期経営計画の進捗	P.21
V. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について	P.39
Appendix - 会社概要	P.46

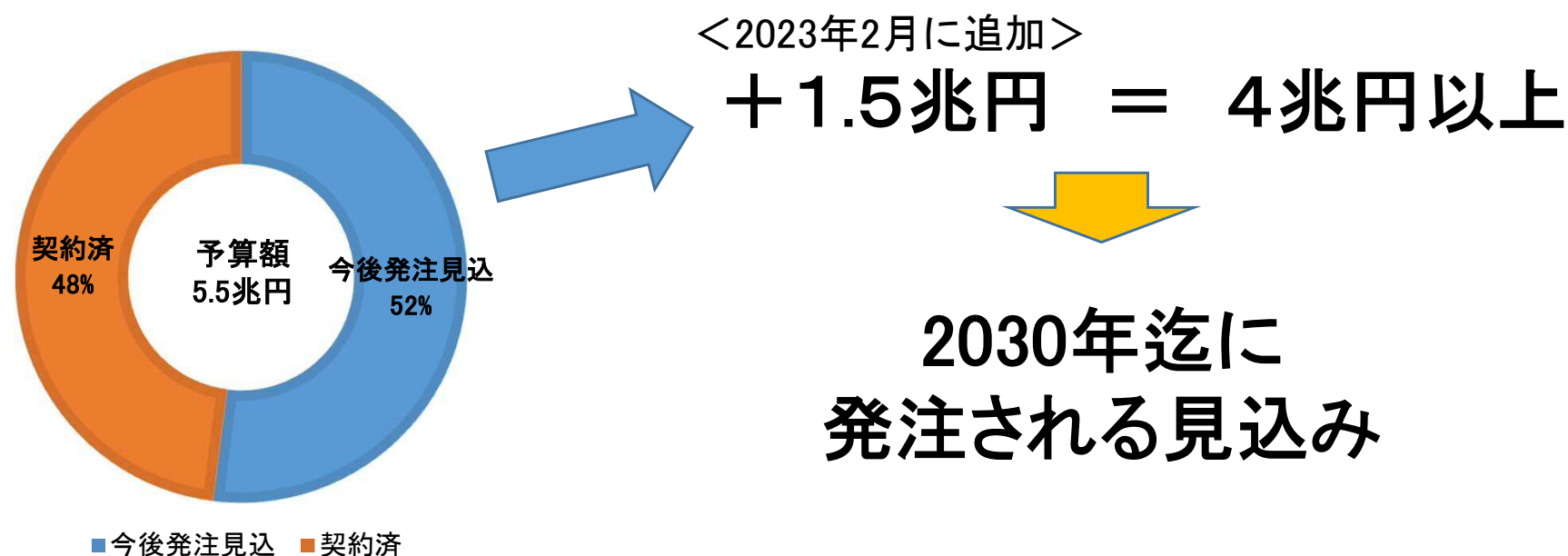
サマリー(1)

- ◆ 2025年3月期第2四半期業績は、売上高361億円、営業利益44億円(期初計画比:売上高3.1%増、営業利益6.7%増)
- ◆ 2025年3月期業績予想は、売上高730億円、営業利益85億円、経常利益86億円といずれも過去最高となり、配当についても97.5円に増配となる見通し
- ◆ 国内公共投資の予算は底堅く推移しており、道路橋・鉄道橋等の橋梁事業についても一定の予算規模が確保されているものの、国土交通省の新設橋梁の発注量(重量ベース)が想定以上に落ち込んでいる状況
- ◆ 改正道路整備特別措置法に基づく2115年までの高速道路有料化を財源とする大規模更新・保全関連工事の継続的な発注や高難度ビッグプロジェクトの推進などもあり、中期的に当社グループが飛躍する事業環境が継続

サマリー(2)

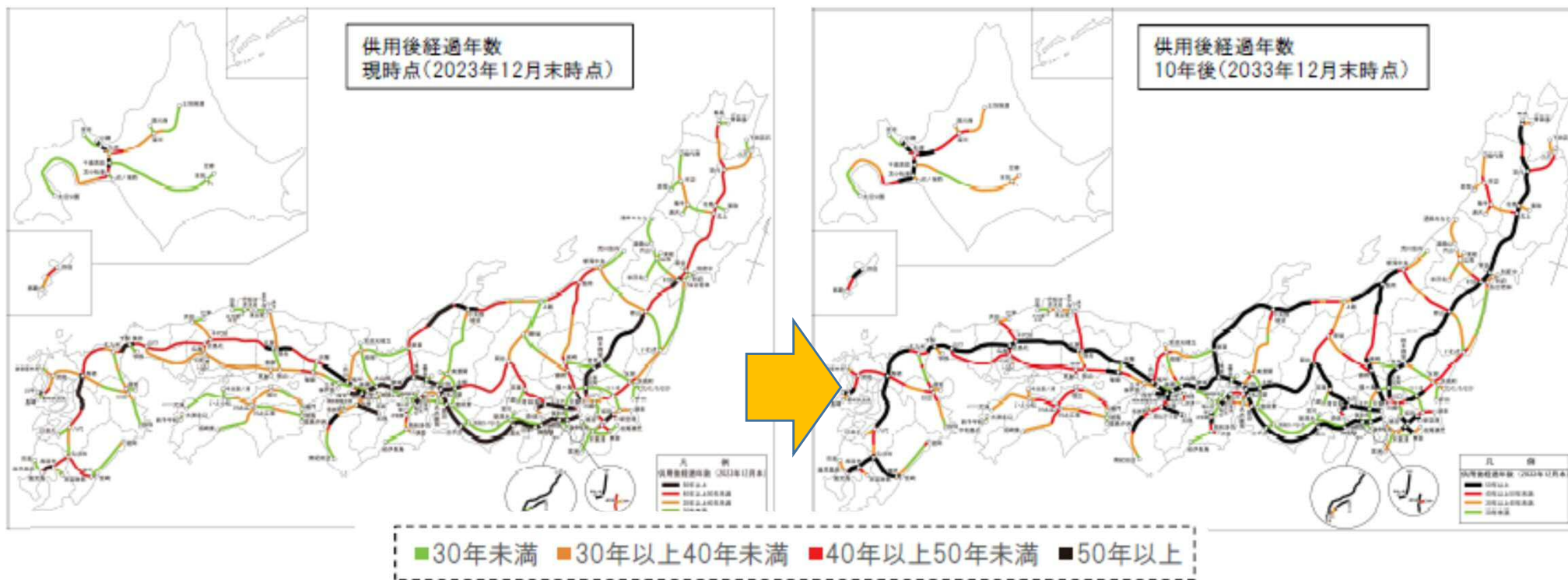
- ◆ 大規模更新・保全関連工事については、約1万kmある高速道路で供用から40年以上経過した延長が約4千km(約4割)程度あり、その内の約1.5千kmを施工するための予算として5.5兆円が見込まれている。2023年度時点でその半分程度が契約済みとなっているが、追加の1.5兆円も含めて2030年迄に残り4兆円以上の工事が発注される見込み

高速道路6社の現更新事業(2014年以降)の進捗状況
(2023年12月末時点)



サマリー(3)

◆ これからも供用から40年以上の高速道路は増え続け、2033年には現在の1.5倍となる約6千kmに達することから、今後も大規模更新・保全関連工事の大きな市場は続くと想定



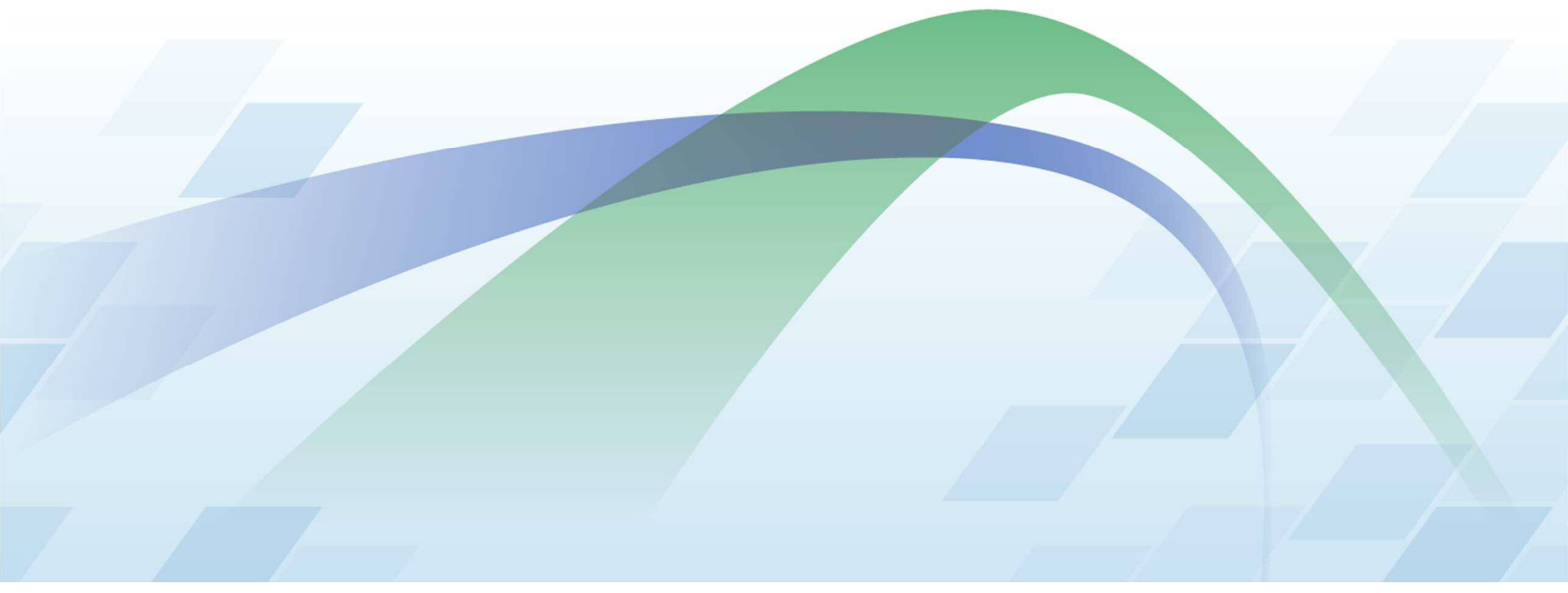
令和6年1月16日 東日本高速道路株式会社・中日本高速道路株式会社・西日本高速道路株式会社 公表資料
 「東・中・西日本高速道路の更新計画について」より抜粋

サマリー(4)

- ◆ ビッグプロジェクトについても、
既に発注手続きが進められている大阪湾岸道路西伸部の連続斜張橋に引き続き、
同路線の単主塔斜張橋・海上橋梁や名神湾岸連絡橋の斜張橋の発注計画も推進中
- ◆ さらに2025年度には、第二関門橋の建設も都市計画決定される見込み
- ◆ これらの市場環境を踏まえ、前回の決算説明会時点より見直し中であった今中期経営計画期間における2026年3月期および2027年3月期の業績見通しを公表



Ⅱ.2025年3月期第2四半期決算



2025年3月期第2四半期トピックス

- ◆ 当社の売上高は、大規模更新工事や大型案件等の工事が順調に進捗したことにより
前年比13.9%増の361億円
- ◆ 同様の理由により、営業利益も同51.8%増の44億80百万円、経常利益についても
同49.9%増の46億32百万円
- ◆ 新設橋梁の発注規模は、物価上昇の影響により、重量ベースでは低調であった前年同期を
さらに下回るペースでの発注実績となっており、特に国土交通省の減少が著しい状況
- ◆ 前年同期に大規模案件の受注があったことと、今年度は年度後半に大型目標案件の受注
を目指していることから、受注については同41.6%減の200億22百万円

2025年3月期第2四半期決算サマリー

大規模更新工事や大型案件が順調に進捗、売上高、利益ともに期首予想を上回る結果
受注高は前年同期の大型案件反動と今年度は下期に大型案件受注を目指していることから低調に

(百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q		25/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	27,951	31,694	13.4%	36,100	13.9%
営業利益	3,184	2,951	▲7.3%	4,480	51.8%
経常利益	3,304	3,089	▲6.5%	4,632	49.9%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,911	1,776	▲7.1%	2,258	27.1%
受注高	30,425	34,287	12.7%	20,022	▲41.6%
受注残高	96,760	103,250	6.7%	99,702	▲3.4%

主要な売上工事(1)

新設関連工事

第二京阪道路
門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事
西日本高速道路株式会社

令和4年度笠岡バイパス
新神島大橋鋼上部工事
中国地方整備局

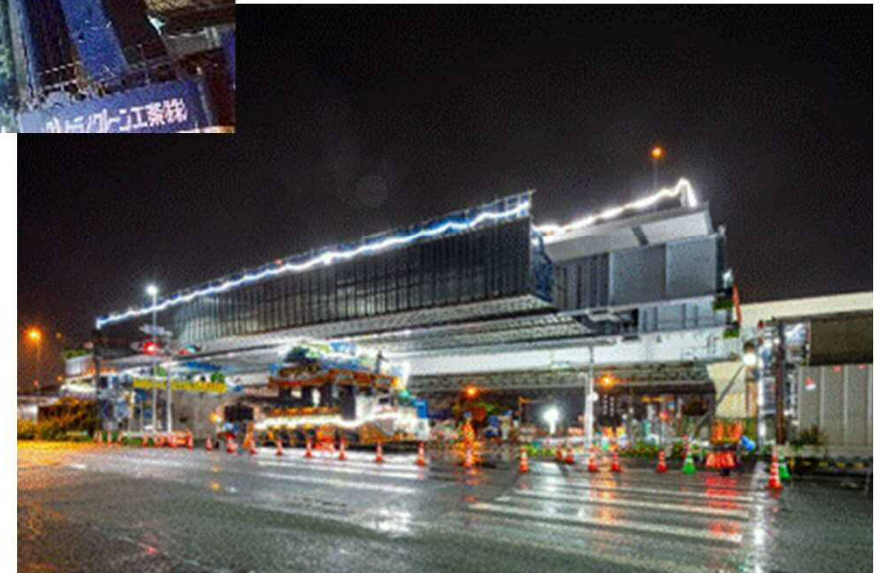


(大型クレーンを用いた
大ブロック架設の様子)

R4国道357号塩浜立体海側橋梁
他上部その2工事
関東地方整備局



(手延べ機を用いた送り出し架設の様子)



(多軸式特殊台車を用いた一括架設の様子)

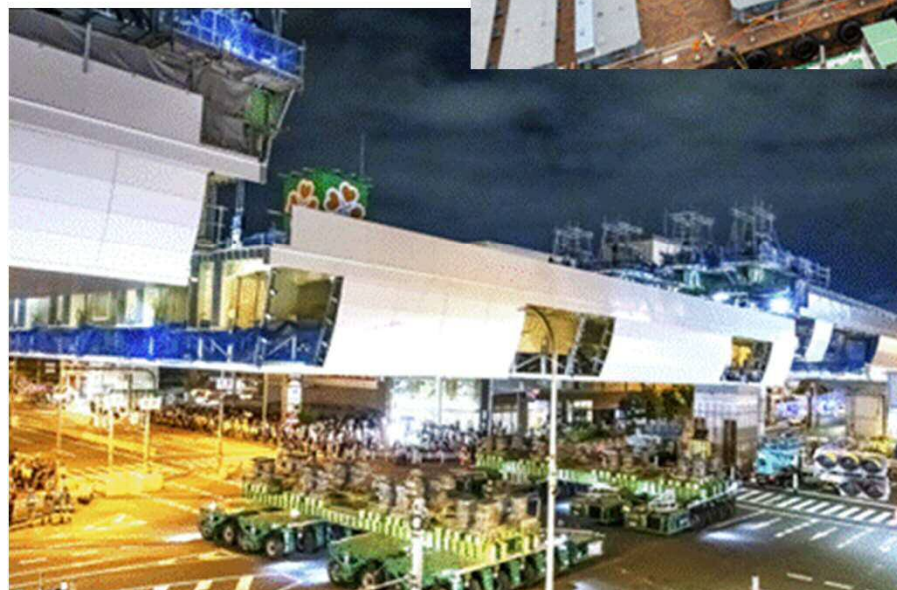
主要な売上工事(2)

大規模更新・保全関連工事

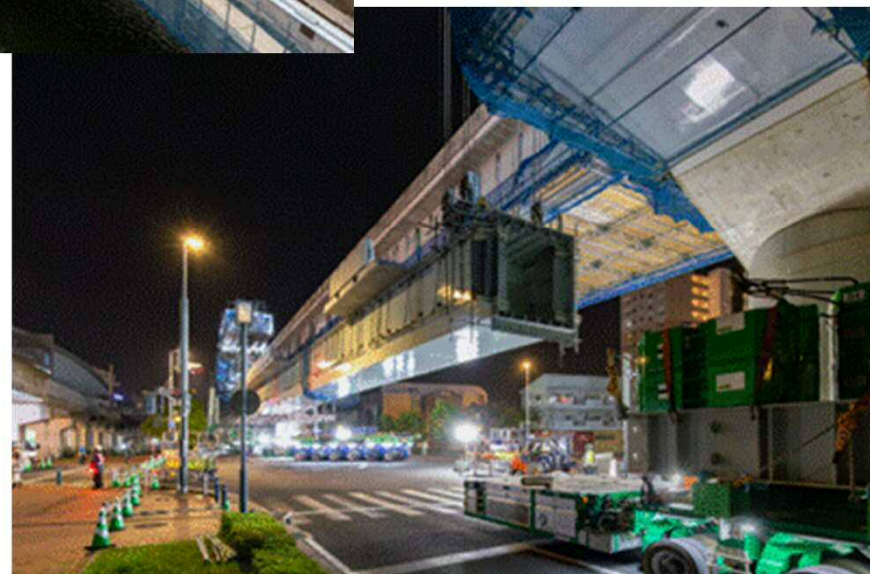


明石高砂線 相生橋上部工拡幅工事
兵庫県

喜連瓜破橋大規模更新工事
阪神高速道路株式会社



佐世保高架橋拡幅工事
西日本高速道路株式会社



主要な売上工事(3)

鉄道関連、大空間・特殊建築物、沿岸構造物工事



広島駅南口広場の再整備等における
駅部、駅前大橋上部工製作工事
株式会社大林組他JV

名古屋市瑞穂公園陸上競技場の
整備等事業
株式会社竹中工務店



ボートレース江戸川
浮消波堤製作工事
五洋建設株式会社



主要な受注案件の概要

当社グループの主要な受注案件

阪神なんば線淀川橋梁改築工事の内、
G9・G10・G11トラス桁架設工事
鹿島・前田・西松JV

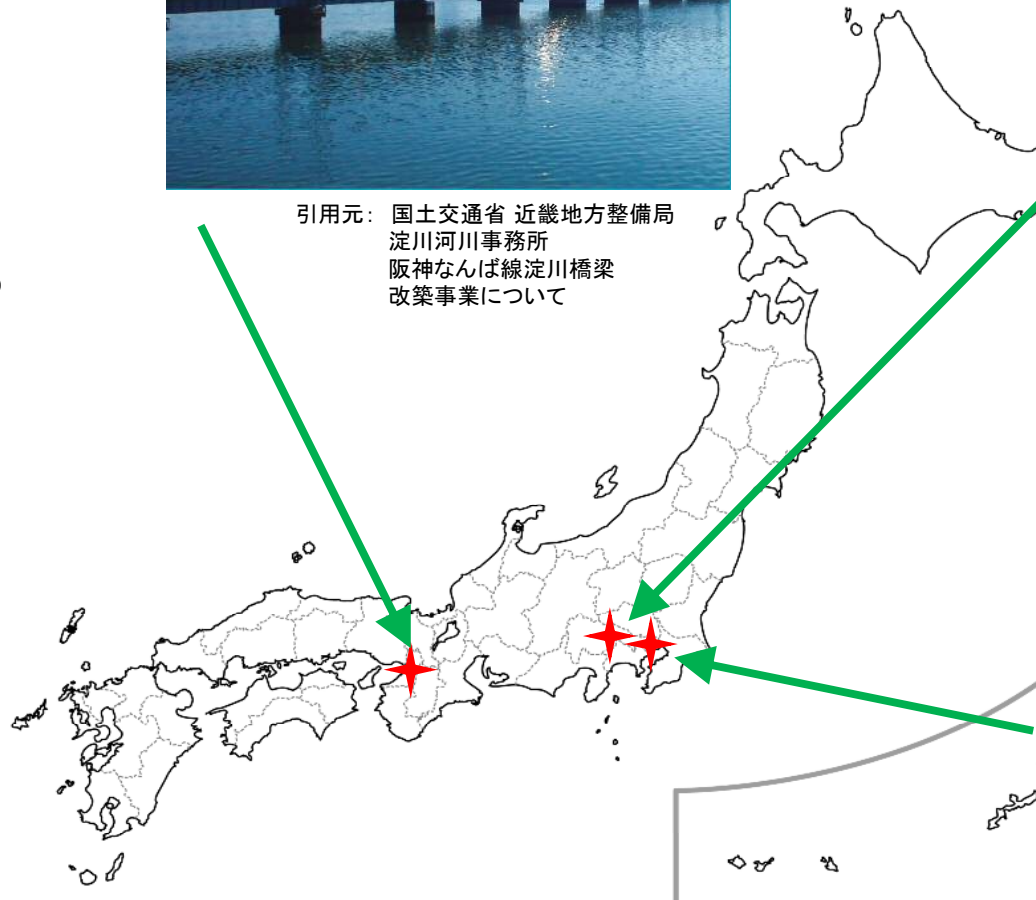


引用元：国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所
阪神なんば線淀川橋梁
改築事業について

中央自動車道(特定更新等)
中野橋床版取替工事(2023年度)
中日本高速道路株式会社



既受注工事の追加工事(例)



品川駅構内環状第4号線交差部新設他
鹿島建設株式会社

セグメント別実績

宮地エンジニアリングは前年同期比増収増益も受注高は新設橋梁の発注量減により低調
 エム・エムブリッジは前年同期比増収大幅増益も受注高は案件少なく減少

(百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q		25/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	27,951	31,694	13.4%	36,100	13.9%
宮地エンジニアリング	16,039	18,991	18.4%	20,809	9.6%
エム・エムブリッジ	11,896	12,720	6.9%	15,292	20.2%
その他	1	2	17.8%	2	39.5%
営業利益	3,184	2,951	▲7.3%	4,480	51.8%
宮地エンジニアリング	2,242	1,564	▲30.2%	1,859	18.8%
エム・エムブリッジ	932	1,384	48.4%	2,624	89.6%
その他	1,022	1,192	16.6%	2,057	72.6%
受注高	30,425	34,287	12.7%	20,022	▲41.6%
宮地エンジニアリング	17,450	19,916	14.1%	15,667	▲21.3%
エム・エムブリッジ	12,973	14,369	10.8%	4,352	▲69.7%
その他	1	2	17.8%	2	39.5%
受注残高	96,760	103,250	6.7%	99,702	▲3.4%
宮地エンジニアリング	54,408	58,187	6.9%	57,453	▲1.3%
エム・エムブリッジ	42,448	45,018	6.1%	42,208	▲6.2%
その他	—	—	—	—	—

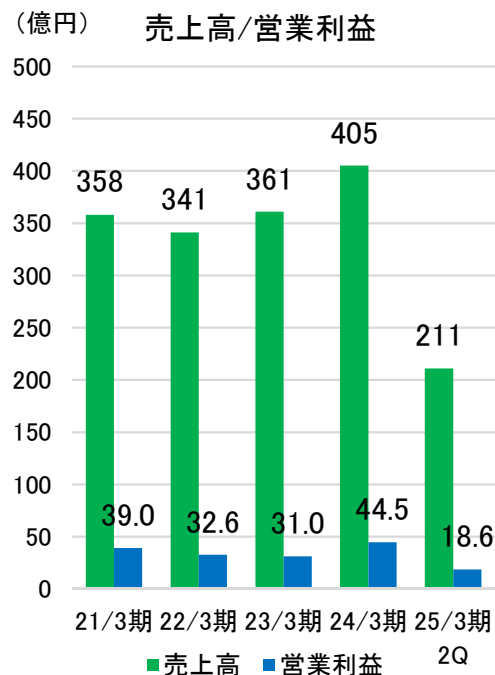
セグメント別実績(2)

宮地エンジニアリング

受注高については、新設桥梁の発注量が減少している状況ですが、保全工事であるNEXCO中日本/中野橋床版取替工事や鹿島建設/品川駅構内環状第4号線交差部新設他の受注により156.6億円となり、受注残高は574.5億円と前年度末から減少しました。

売上高は、手持ち工事が順調に進捗し、210.9億円となり、損益につきましても順調に推移して、営業利益は18.5億円、経常利益は20.1億円となりました。

今後は新設桥梁の発注量が減少している状況ですが、中野橋のようなECI工事の受注に注力するとともに、収益向上に努めます。



今後の取り組み

新設事業から保全事業まで、バランスの良い受注を確保

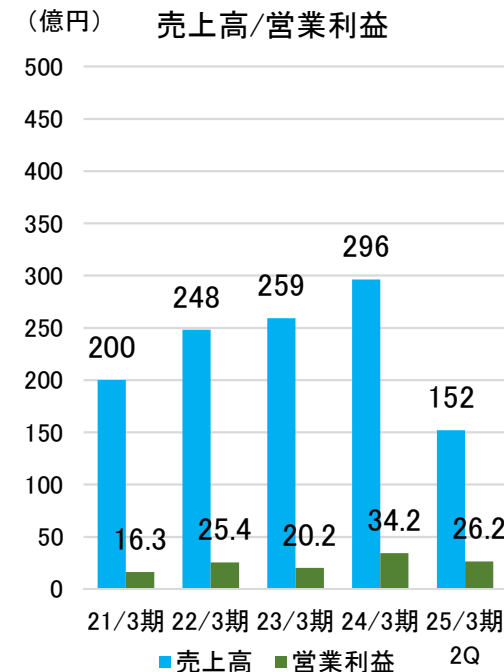
経営トップ自らの発信や率先垂範により、持続的成長を目指す企業の根幹をなす従業員の意識改革に取り組んでいます。こうした意識改革をはじめ、業務効率の向上、千葉工場改革プロジェクトによる生産性の向上、固定費・変動費の削減を進めるほか、技術開発の推進による企業価値向上と開発商品の拡販による収益拡大を図っていきます。また、リクルート活動の強化と技術交流により人材の確保・育成を図り、経営基盤の強化に努めます。

エム・エムブリッジ

受注高については、当上半期の受注目標案件が少なかったことから43.5億円となりました。

売上高は、阪神高速道路/喜連瓜破橋等の大規模更新工事の手持ち工事が順調に進捗したことにより152.9億円となり、損益につきましても順調に推移して営業利益、経常利益とも26.2億円となりました。

下半期は大規模更新・保全関連工事の発注後ろ倒し等の影響があるものの、引き続き受注増しを目指すとともに、過去最高の売上高および収益向上に努めます。



今後の取り組み

新設桥梁プロジェクトと高速道路大規模更新工事への参画

新設及び保全市場共に大規模・高難度工事が増えていくことから、高度な技術力と豊富な経験・実績を持つ当社の強みを十分に活かせる事業環境にあると考えており、積極的に参画を進めていきます。一方で、建設業界全体が人材不足であり、働き方改革への対応も必要なため、現場業務の負荷軽減を重視したICT活用を行っていきます。また、大規模・高難度工事での活用を視野に入れた技術開発も進めていきます。

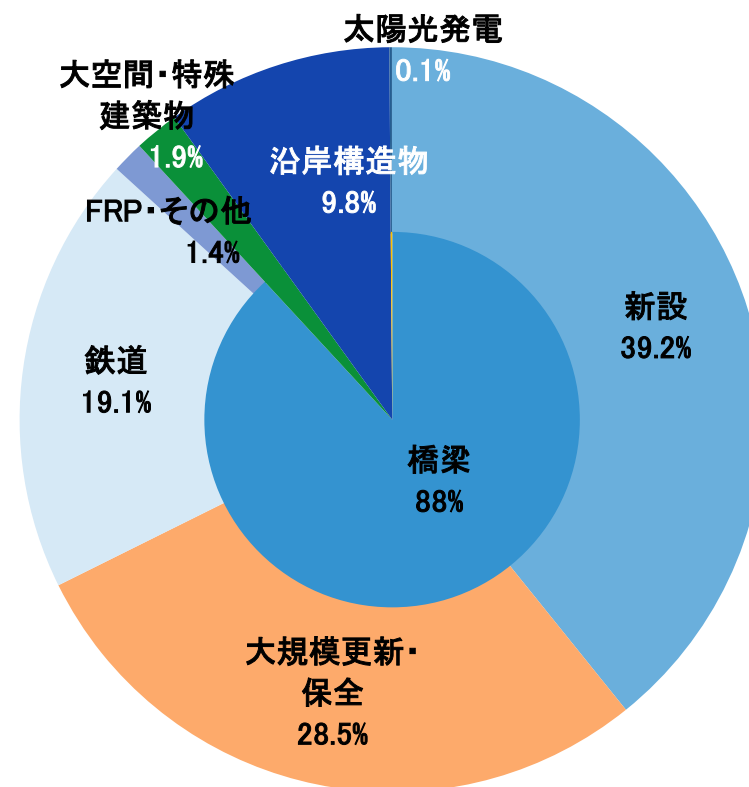
事業別実績(3)

業界トップクラスの橋梁総合エンジニアリング企業

長大橋含む鋼製橋梁、タワー・ドームなど大空間構造物、沿岸構造物の設計・製作・建設計画・施工を一貫して手掛ける

橋梁	新設	大規模プロジェクトを含む新設橋梁の設計・製作・施工計画・現場施工
	大規模更新・保全	高速道路の構造物を最新の技術を用いて建設当初と同等またはそれ以上の性能や機能を回復させる大規模更新工事と、既設橋梁の補修、拡幅、災害復旧、撤去、架け替え工事などの設計・製作・施工計画・現場施工
	鉄道	高い技術力を必要とする鉄道の渡河橋や跨道橋および跨線橋の設計・製作・施工計画・現場施工
	FRP・その他	FRPを用いた検査路や化粧板などの開発製品や特許技術などに関する販売、業務委託
大空間・特殊建築物	東京スカイツリーなどの高層タワーやエスコンフィールド北海道などのドームの施工計画・現場施工	
沿岸構造物	特殊な設計技術力を必要とする鋼製の沈埋函、ケーソン、ジャケット、浮消波堤などの設計・製作	
太陽光発電	旧工場跡地を活用した太陽光発電事業	

2024年3月期 事業別売上実績比率



貸借対照表、キャッシュ・フロー

自己資本比率は24/3末の53.5%から51.8%とほぼ横ばい

主な貸借対照表の項目

(百万円)

	23/9末	24/3末	24/9末
資産合計	66,952	74,146	74,498
流動資産	46,315	51,316	51,602
固定資産	20,636	22,829	22,895
有形固定資産	12,994	13,911	14,576
無形固定資産	378	415	404
投資その他の資産	7,263	8,502	7,915
負債合計	23,172	27,515	28,687
流動負債	18,947	22,851	24,146
固定負債	4,242	4,664	4,541
純資産合計	43,780	46,630	45,810
株主資本	31,059	32,481	31,788
その他の包括利益累計額	6,348	7,230	6,820
非支配株主持分	6,372	6,918	7,202

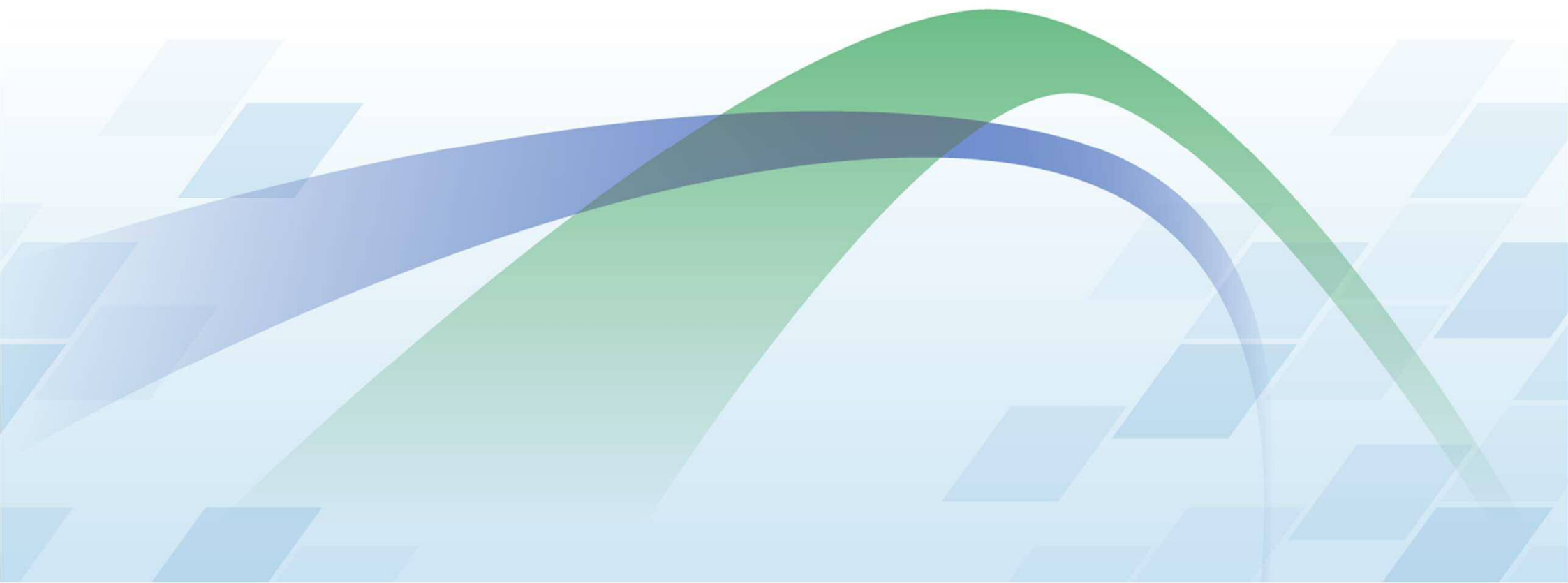
売上債権増加等により営業CFはマイナスに転じ短期借入金を調達、株主還元にも充当

主なキャッシュ・フロー計算書の項目

(百万円)

	23/3期2Q	24/3期2Q	25/3期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,239	2,132	▲7,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲216	▲377	▲1,698
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,583	▲727	▲879
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	1,439	1,027	▲9,854
現金及び現金同等物の期末残高	17,418	14,643	9,260

Ⅲ.2025年3月期業績予想



2025年3月期トピックス

- ◆ わが国経済の見通しは、各種政策の効果もあって緩やかな回復が期待されており、公共投資の先行きにおいても、関連予算で見ると補正予算の効果もあり、堅調に推移する見込み
- ◆ そのような状況下、橋梁事業の2024年度の発注見通しについては、新設関連で2,500億円と前年同規模程度の発注量(金額ベース)を予想しているが、物価上昇の影響により、重量ベースでは低調であった前年同期をさらに下回るペースでの発注実績となっており、特に国土交通省の発注実績の減少が著しい状況
- ◆ 改正道路整備特別措置法に基づく2115年までの高速道路有料化を財源とする道路整備などの促進により、同規模の発注が見込まれている大規模更新・保全関連工事においても、期首に想定していた2,800億円の予想発注規模が2,100億円に減少
- ◆ 中期的に当社グループが飛躍する事業環境が継続するものの、今期は次頁の理由により業績見通しを修正

2025年3月期トピックス

- ◆ 国土交通省の新設関連橋梁の発注減少に伴う受注不振により、来年度の千葉工場における操業度見通しが悪くなっているため、山崩しを行い、今年度の稼働率が低下
- ◆ 現地工事の進捗が想定よりも順調であったため、売上規模は期首予想値を維持
- ◆ 特定の工事において品質に関するトラブルにより大きな手直しが発生し、大幅な追加原価が発生したため、損益が悪化し、営業利益および経常利益を下方修正
- ◆ 施工難易度の高い大規模更新工事は、現地の条件や予算の影響などにより年単位で施工時期や発注時期が遅れることも多く、当社が目標とする大型案件の発注時期が来年度以降に繰り越しとなった影響により、受注目標についても下方修正

2025年3月期業績予想

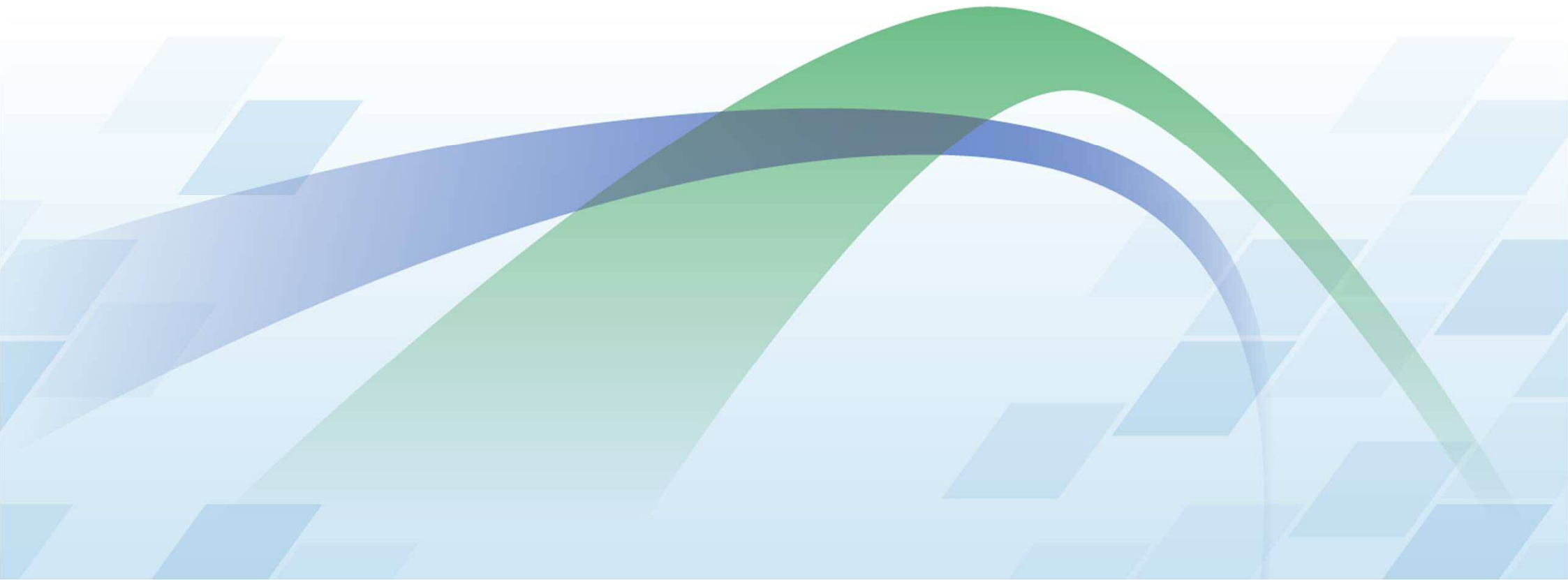
新設橋梁の受注不振により、工場稼働率の平準化を図るために製作を来期へ繰越し、利益を下方修正
一方、現地工事の進捗が想定よりも順調のため、売上高は期初予想を維持。配当予想の修正はなし

(百万円)

	24/3期		25/3期			
	実績	前年比	期初予想	修正予想	増減率	前年比
売上高	69,365	15.1%	73,000	73,000	0.0%	5.2%
営業利益	7,904	54.2%	9,500	8,500	▲10.5%	7.5%
経常利益	7,908	47.2%	9,600	8,600	▲10.4%	8.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,354	41.5%	4,400	4,000	▲9.1%	▲8.1%
1株当たり年間 配当金(円)*	96 <small>(普通配当 91 記念配当 5)</small>	—	97.5	97.5	—	—
自己資本利益率 (ROE)	11.6%	—	10.8%	10.1%	—	—
受注高	84,486	26.8%	84,000	72,000	▲14.3%	▲14.8%
受注残高	115,780	15.0%	126,780	114,780	▲9.5%	▲0.9%

* 2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示

IV.中期経営計画の進捗



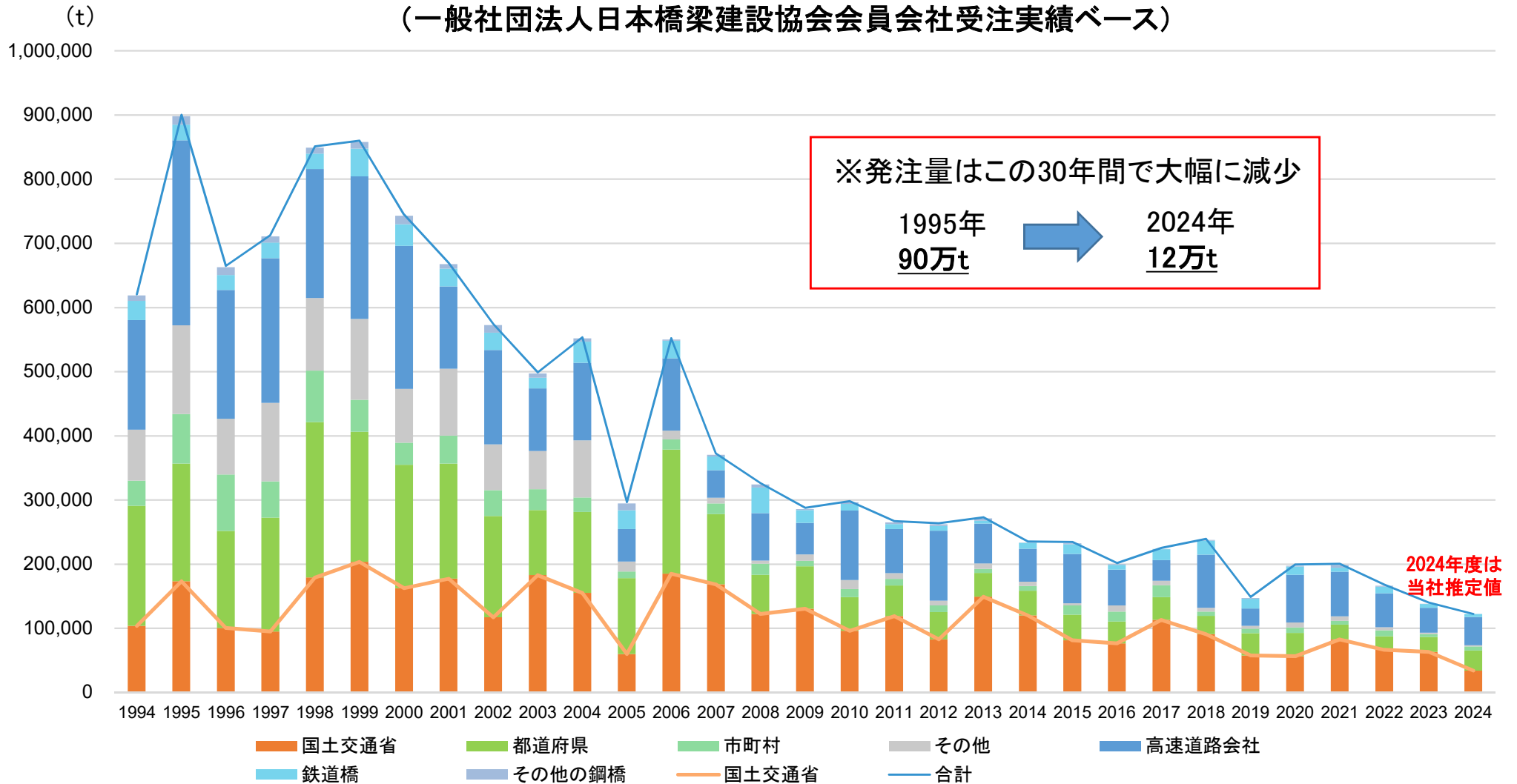
中期経営計画 達成目標の見直し

- ◆ 公共投資の先行きについては、関連予算でみると補正予算の効果もあって、金額ベースでは堅調に推移していくことが見込まれているものの、新設関連橋梁においては、物価上昇の影響により、重量ベースでは低調であった前年同期をさらに下回るペースでの発注実績
- ◆ 高速道路会社の発注案件は大型化してきており、特定の案件を受注できるか否かにより重量ベースでの受注実績に大きな変動が生じる上、詳細設計や同時並行で施工される下部工などの影響により製作時期が見通せないことも多く、工場操業度の平準化が難しい
- ◆ 受注後の製作時期が見込みやすく、工場操業度の平準化への貢献度が高い国土交通省の新設橋梁の重量ベースによる発注量が想定以上に減少している状況

中期経営計画 達成目標の見直し

鋼橋発注量(t)の推移

(一般社団法人日本橋梁建設協会会員会社受注実績ベース)

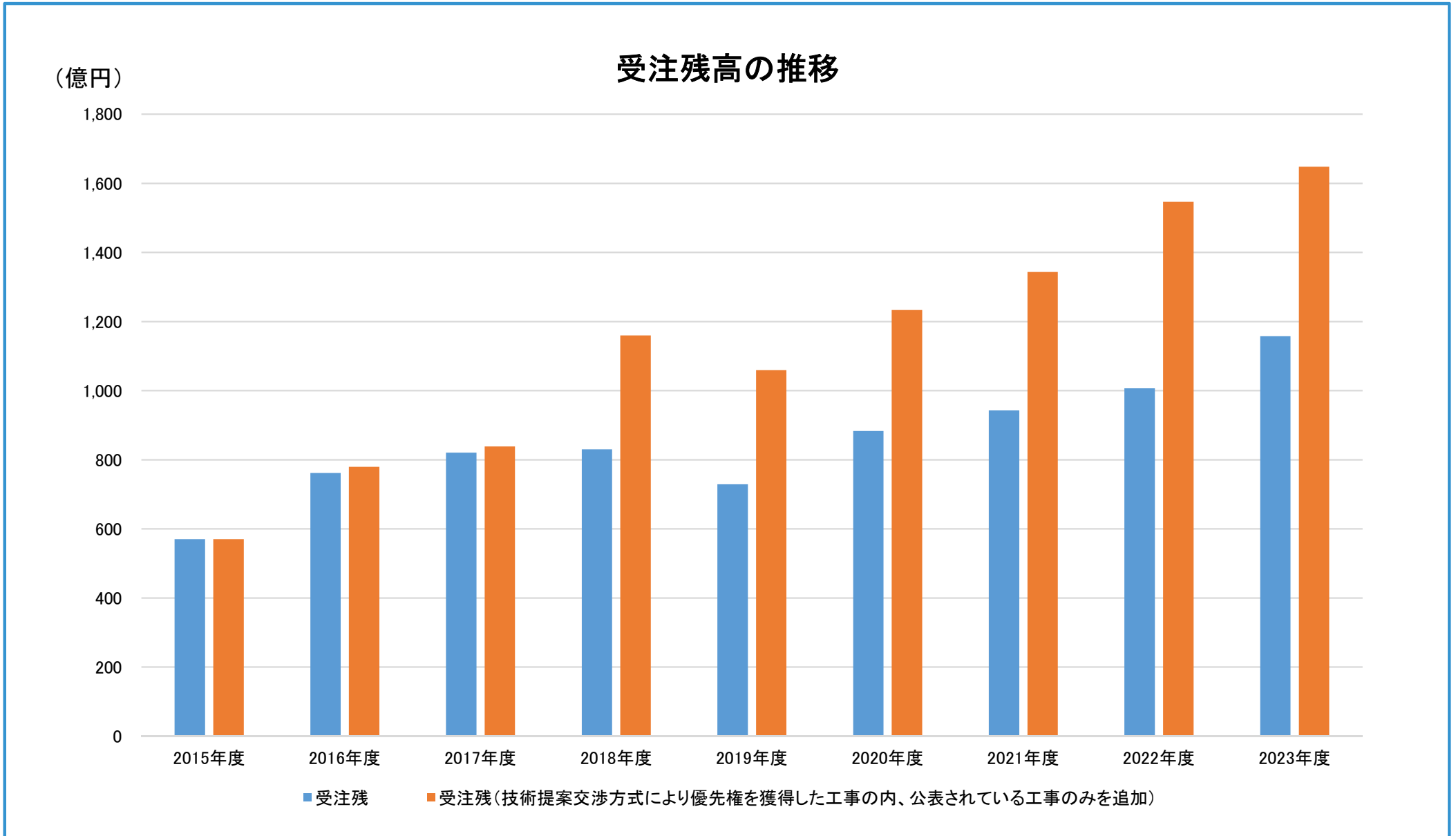


出所)一般社団法人日本橋梁建設協会

中期経営計画 達成目標の見直し

- ◆ 安定的な発注が見込まれている大規模更新・保全関連工事においては、非常に技術的難易度の高い施工対応力が求められているため、詳細設計や第三者協議などが難航することも多く、施工時期や発注時期が年単位で遅れることが多い
- ◆ 技術提案交渉方式による詳細設計取組中案件を含めると、当社グループとしては相当量の大規模更新・保全関連工事のストックを有しているものの、複数の案件が年単位で遅れた場合には売上が落ちることが避けられないことから、売上を平準化することが難しい
- ◆ 但し、今後も継続して受注を積み上げて受注ストックを増やすことにより、次期中期経営計画期間(2027~2031年度)においては、一定以上の安定的な売上を確保できる見通し
- ◆ 受注から売上までの期間が短い新設関連主体から、詳細設計や協議などにより受注から、売上までの期間が非常に長くなる大規模更新・保全関連主体へと、市場環境が変化している過渡期においては、谷間の年が発生する可能性が高い

中期経営計画 達成目標の見直し



定量目標の進捗および見直し



(百万円)

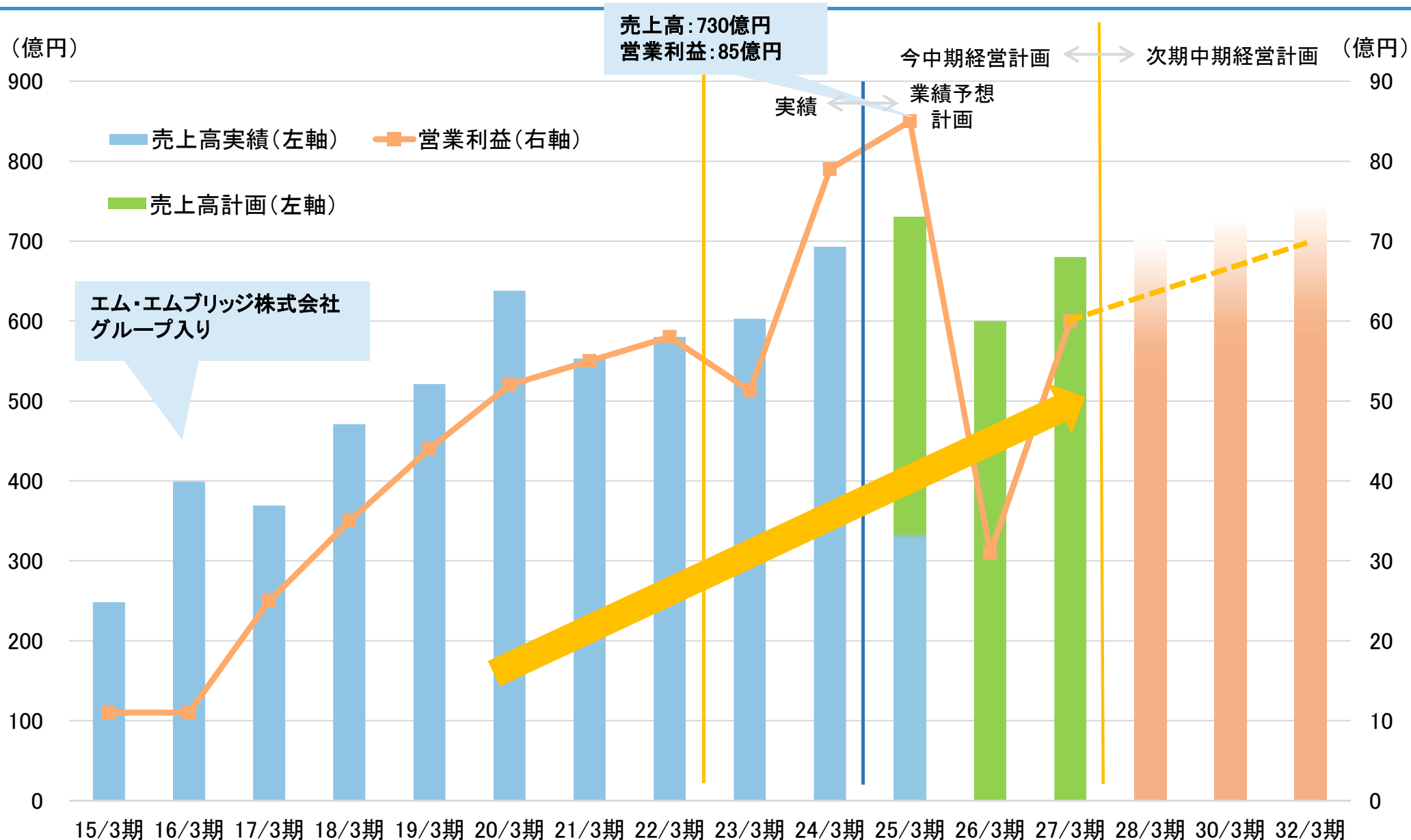
	23/3期	24/3期	25/3期		26/3期	27/3期	
	実績	実績	当初目標	予想	見通し	当初目標	修正目標
売上高	60,279	69,365	70,000	73,000	60,000	75,000	68,000
営業利益	5,127	7,904	7,000	8,500	3,100	7,500	6,000
経常利益	5,373	7,908	7,000	8,600	3,200	7,500	6,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,077	4,354	3,800	4,000	1,900	4,000	4,000
1株当たり年間配当金(円)*1	35	96	42.5	97.5	97.5	45	97.5
自己資本比率	56.3%	53.6%			55%		
自己資本利益率(ROE)	8.9%	11.6%			10%		
総資本利益率(ROA)	8.6%	11.5%			10%		

*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示

次期中期経営計画も見据えた今後の進め方

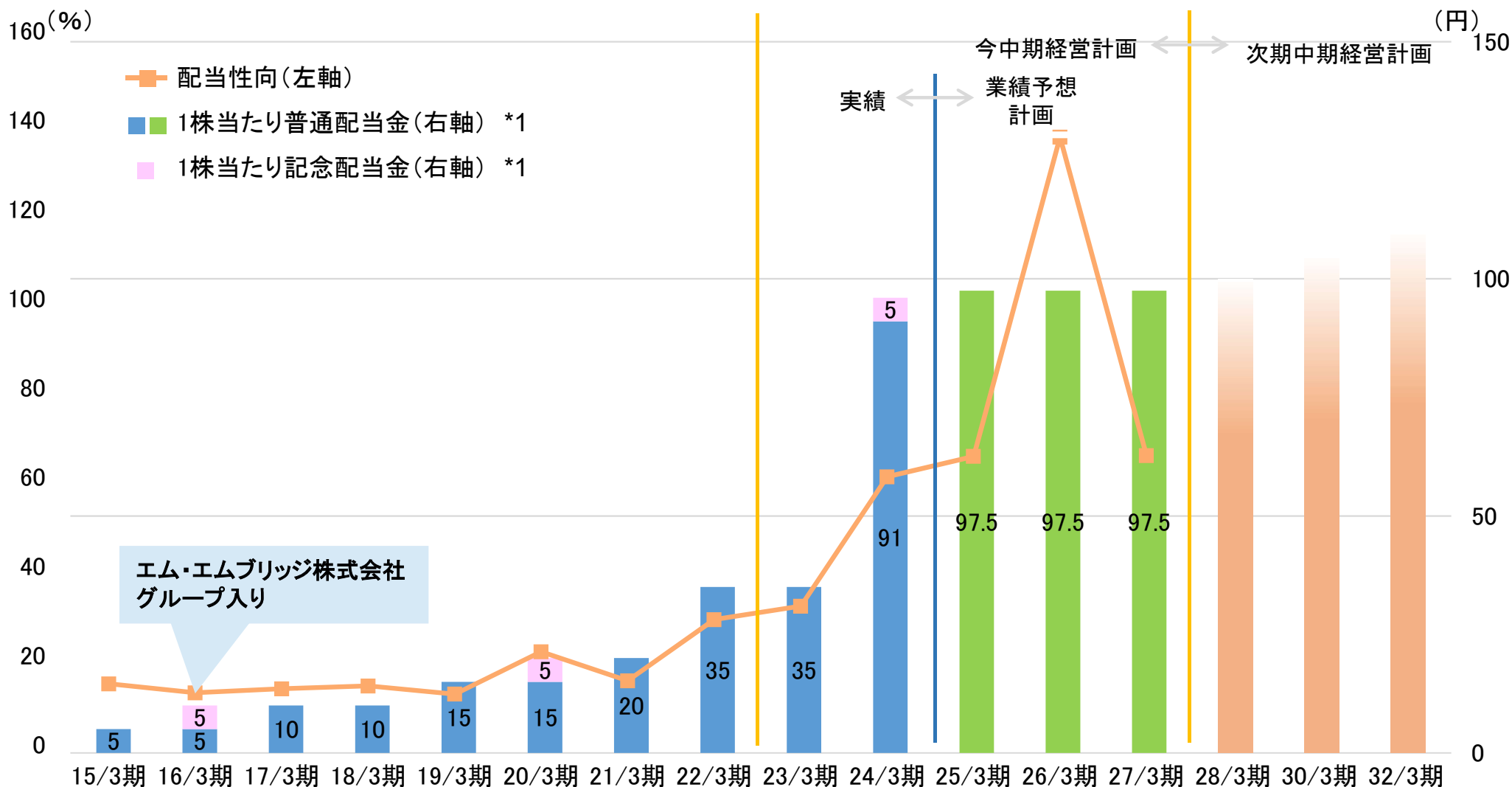
- ◆ 中期経営計画(2022~2026年度)に基づきグループとしての経営管理体制を一層強化する
- ◆ 今後も継続して安定した黒字体質を確固たるものとするよう努める
- ◆ 宮地エンジニアリング株式会社、エム・エムブリッジ株式会社と一体となって持続的な成長と事業発展を図る
- ◆ 国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえて新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、民間工事に経営資源の選択と集中を行う
- ◆ 人材の確保・育成、女性活躍を推進し、働き方改革を進める
- ◆ 株主への還元策として、配当金額の継続的な維持拡大を目指す
- ◆ 具体的な次期中期経営計画(2027~2031年度)の内容については2026年度に公表予定

売上高・営業利益の実績および計画



配当金の実績および計画

配当性向60%を目安に株主還元維持・拡大へ



エム・エムブリッジ株式会社
グループ入り

*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり配当金は分割考慮後で表示

主要戦略の状況



主要戦略	進捗評価	取組状況
1) 新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	○	想定よりも遅れているものの、大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクト(連続斜張橋)の受注に向けて、鋭意取組中
2) 高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	○	今年度も技術提案・交渉方式で発注された仙川高架橋床版取替工事、新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事の優先交渉権を獲得し、詳細設計対応中
3) 民間の高難度工事への対応	○	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事(鉄道、大空間・特殊建築物、沿岸構造物関連工事)についても、複数の具体的案件に鋭意取組継続中
4) 技術開発の強化	○	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中
5) 事業拡大・効率化に向けた設備投資	○	栗橋機材センターへの太陽光発電設備設置中・兵庫機材センター移転地の造成開始・2027年1月の竣工に向け千葉工場新事務所棟建築計画を推進中
6) アライアンス強化	○	ゼネコンとの異工種JVにより大規模更新・保全関連工事の優先交渉権獲得引き続き複数の案件で異工種JVによる応札対応中
7) 開発商品の拡販	○	FRP検査路などの開発商品について、事業計画に基づき順調に拡販対応中
8) ESGへの取り組み	○	統合報告書2024においてKPIを公表 GHG排出量のScope 1・2・3公表など、非財務情報の開示を拡充

質・量共に
経営資源を揃える
当社の強みを
最大限に発揮できる
プロジェクト

施策取り組みの状況

優先交渉権を獲得して設計対応中の大規模工事

道央自動車道 北郷地区橋梁リニューアル工事 実施設計

発注者：東日本高速道路株式会社 北海道支社

契約業者：大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・極東興和・エム・エムブリッジ

道央自動車道 北郷地区リニューアル工事特定建設工事共同企業体



中央自動車道(特定更新等)

仙川高架橋床版取替工事(詳細設計 その1)

発注者：中日本高速道路株式会社 東京支社

契約業者：鹿島建設(株)・(株)鴻池組・
ドーピー建設工業(株)・宮地エンジニアリング(株)
・エム・エムブリッジ(株)JV



新名神高速道路 新治橋他1橋(鋼上部工) 設計・工事(設計業務)

発注者：西日本高速道路株式会社 関西支社

契約業者：エム・エムブリッジ



横浜新道 新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事

発注者：東日本高速道路株式会社 関東支社

契約業者：鹿島建設(株)・エム・エムブリッジ(株)・
佐藤工業(株)・ドーピー建設工業(株)

横浜新道 新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事
特定建設工事共同企業体



施策取り組みの状況

ゼネコン等との異工種JVにより受注した 2024年度に竣工または施工中の大規模更新・保全関連工事



喜連瓜破大規模更新工事
阪神高速道路株式会社
大成・富士ピー・エス・MMB異工種JV



中央自動車道(特定更新等)
中野橋床版取替工事(2023年度)
中日本高速道路株式会社
富士ピー・エス・宮地エンジニアリングJV



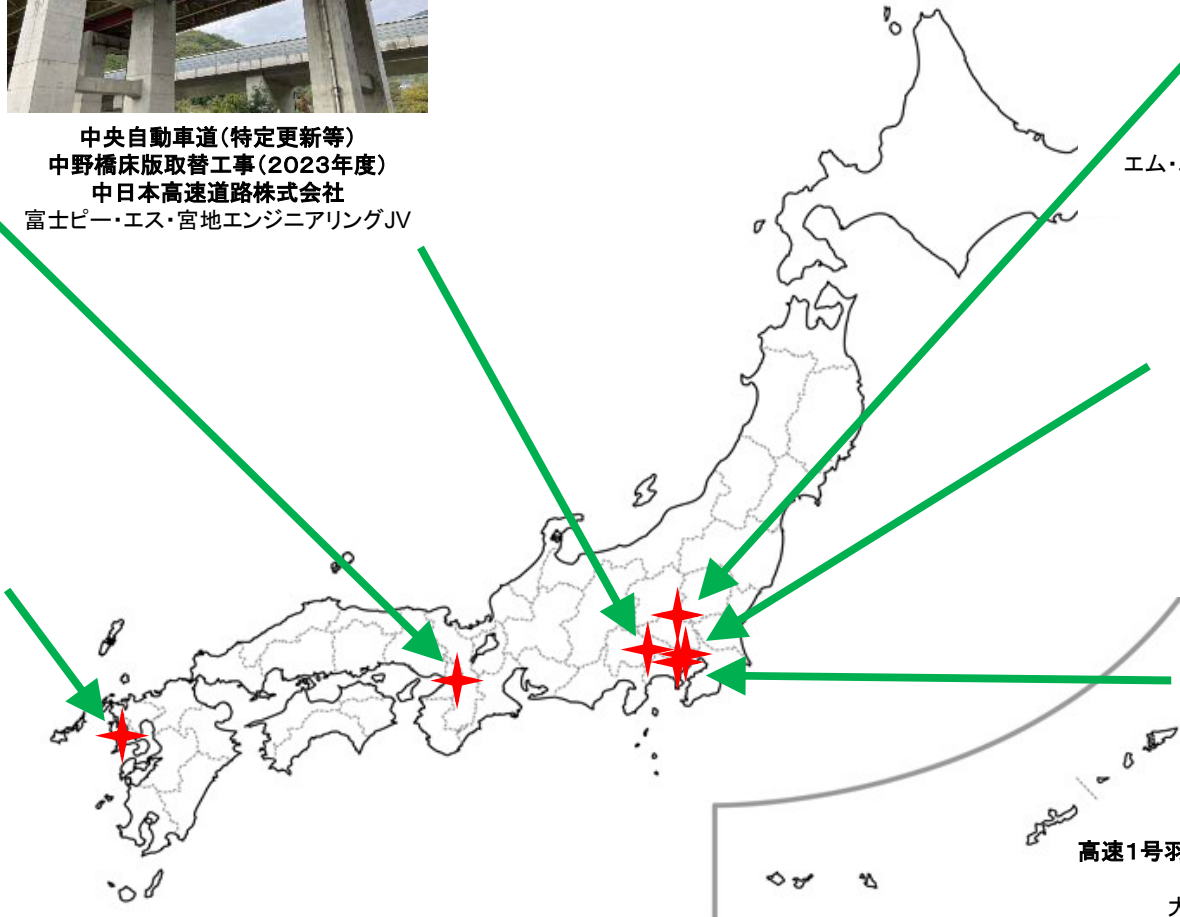
東北自動車道 利根川橋耐震補強工事
東日本高速道路株式会社
エム・エムブリッジ株式会社・鉄建建設株式会社



佐世保道路 佐世保高架橋(拡幅)工事
西日本高速道路株式会社
エム・エムブリッジ・瀧上工業・富士ピー・エスJV



(改都心環状線(日本橋区間)高速6号
向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事
首都高速道路株式会社
JFE・MMB・鹿島・東亜異工種JV

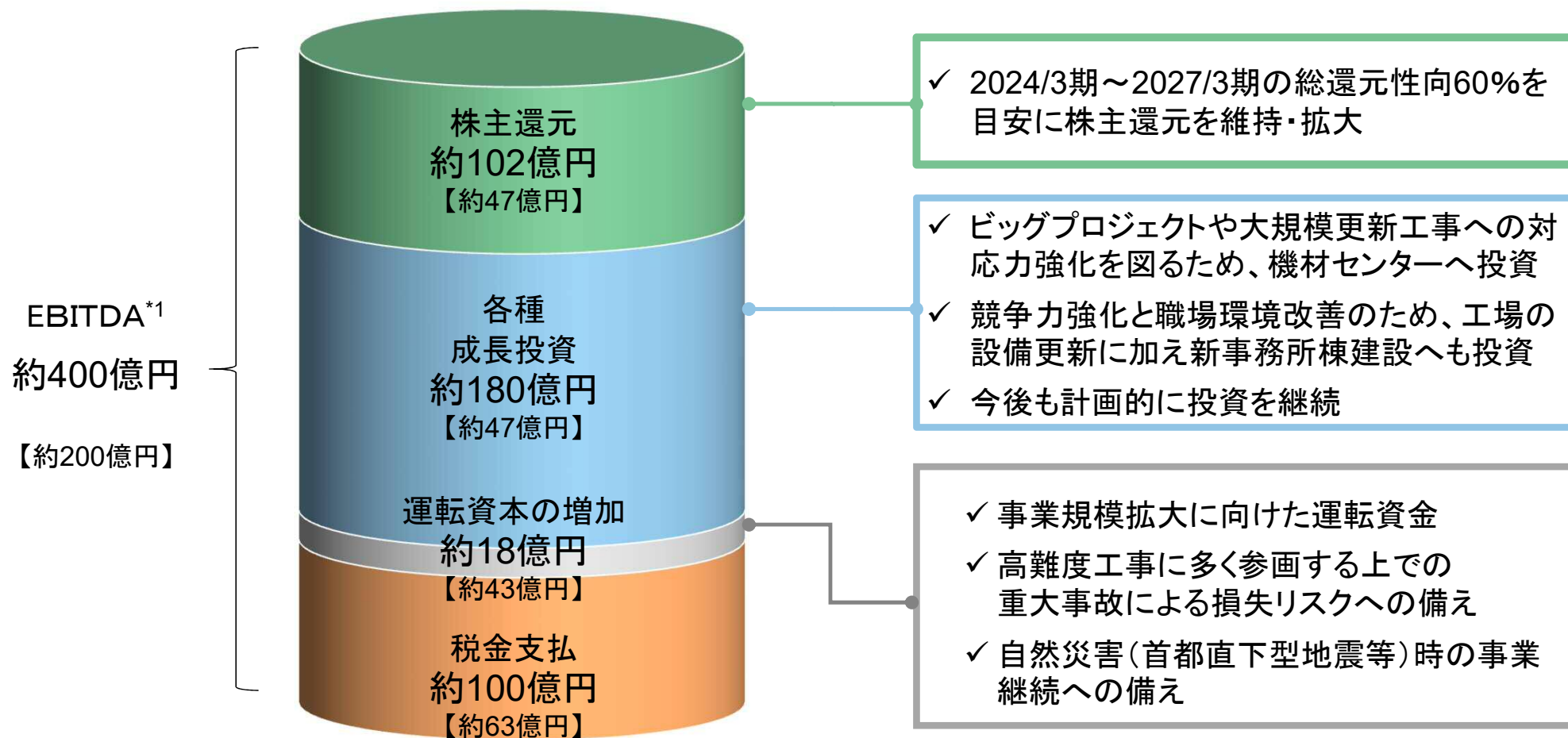


高速1号羽田線(東品川棧橋・鮫洲埋立部)更新工事
首都高速道路株式会社
大林・清水・三井住友・東亜・青木あすなる・
川田・東骨・MMB・宮地異工種JV

資本戦略

一定の資本拡充および成長投資も確保の上で、株主還元の維持・拡大を図る

2023/3期～2027/3期合計

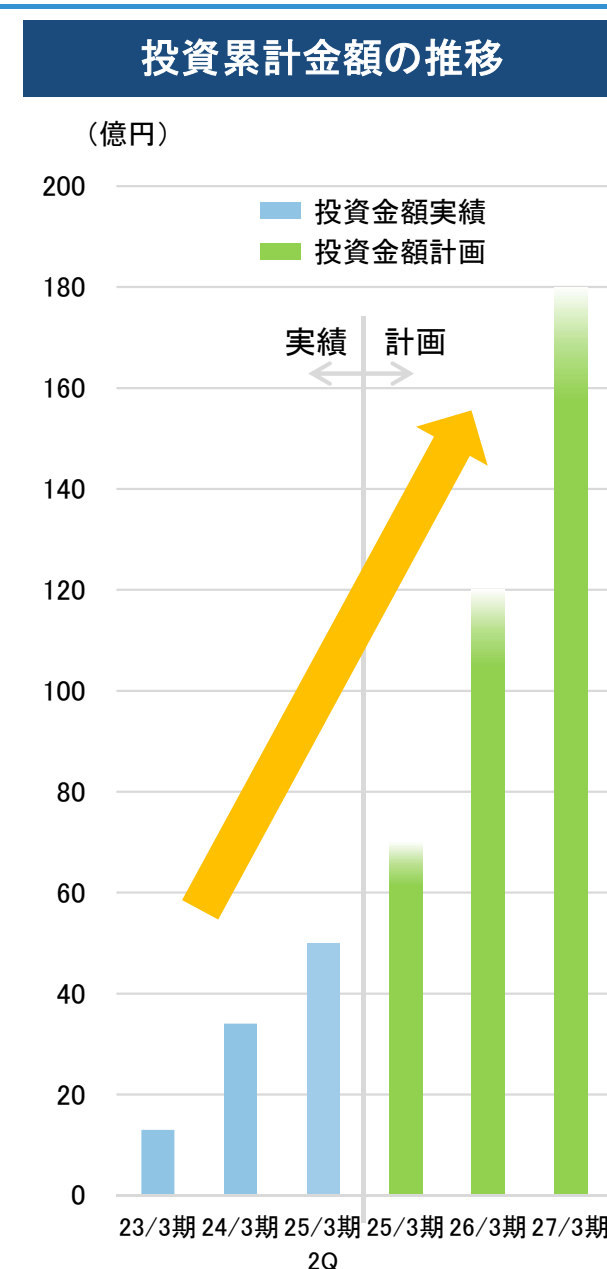


*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

(注) 【 】内は2023/3期～2025/3期2Qの実績累計

投資戦略

		5年間の投資 見込み金額	実績累計	投資の内容
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース効率化	1.5億円	0.2億円	塗装工場再構築は完了 仮組ヤードへの50t吊大型門型クレーン導入完了 その他の設備についても順次更新予定
	塗装工場再構築	13.0億円	11.5億円	
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	25.0億円	11.4億円	
	新事務所棟建設	60.0億円	—	2027年1月竣工に向け、基本設計対応中
	機材センターの改修	10.5億円	8.3億円	栗橋機材センターの保管倉庫・新事務棟建築完了
	機材センターの設備更新	17.0億円	7.0億円	ヤード内門型クレーン等の設備を順次更新中
	栗橋機材センター保管ヤード見直しの追加	10.5億円	—	代替地となる保管ヤード候補地を選定中
	兵庫機材センターの移転拡張の追加	12.5億円	4.1億円	2027年3月竣工に向け、用地を取得して造成開始
カーボンニュートラル対応	2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な施策の実施の追加	9.0億円	0.1億円	機材センターへの太陽光発電設備設置対応中
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発	11.0億円	4.5億円	10件/年の新技術開発に取り組み中 DXを活用した業務効率化に向けて鋭意対応中
総合エンジニアリングの機能強化	技術開発			
	M&A	10~30億円規模を想定	—	持続的成長に資する案件があれば前向きに取り組むべく、準備対応中
成長投資合計		180~200億円規模を想定		



投資戦略



〈改修工事が完了した栗橋機材センター〉



〈千葉工場新事務所棟計画〉



社会的課題への取り組み(1)

グループとしてのSDGsへの取り組み

自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

- ◆ 中越大震災・東日本大震災・福島県沖地震における新幹線緊急復旧
-新幹線高架橋の横ずれ3か月で復旧
- ◆ 熊本地震・熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備・第一白川橋りょう
-アーム式支保工で倒壊防止・ケーブルクレーンを用いた撤去・復旧
- ◆ 令和元年東日本台風・日野橋の緊急復旧
-アーム式支保工で倒壊防止

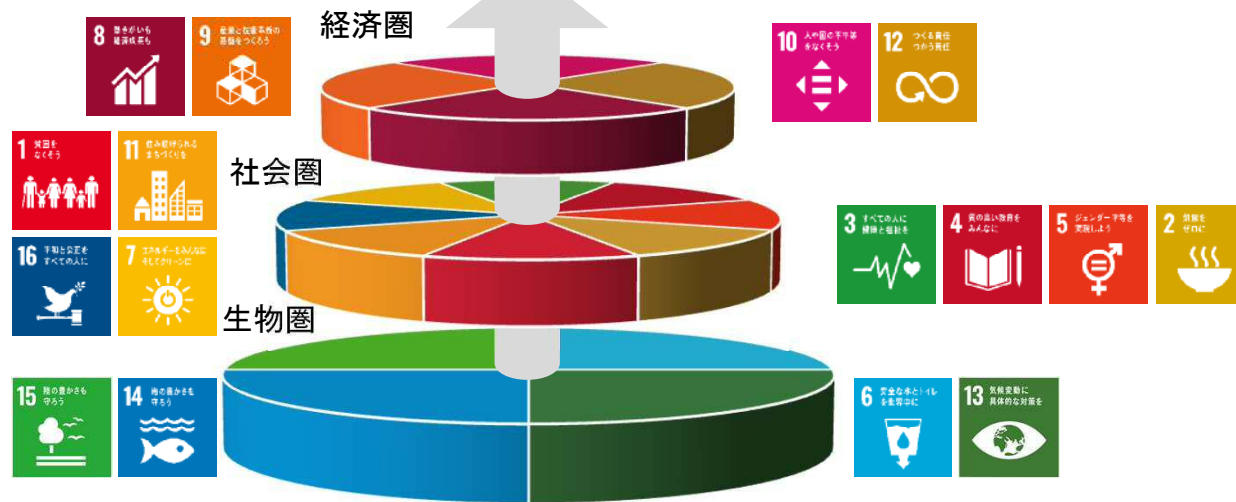


人材育成・ダイバーシティ推進

- ◆ えるぼし認定「星2つ」の取得・維持に向けた取り組み
-ライン部長など女性社員の幹部積極登用するなど、女性活躍を積極支援
- ◆ くるみん認定の取得に向けた取り組み
-従業員に対する子育て支援の充実
- ◆ 技術・技能および企業文化伝承への取り組み
-各種資格取得の支援・現場OJTによるベテラン従業員の指導
- ◆ イノベーションを生み出す職場環境の整備
-介護に伴う制度の整備・職場環境の改善

環境への取り組み

- ◆ 松本工場跡地にて太陽光発電設備稼働中
- ◆ 機材センターにも太陽光発電設備設置予定
- ◆ GHG排出量(Scope1・2・3)を算出して開示
- ◆ 沿岸構造物の電気防食技術を用いた サンゴ保全活動(生物多様性への取組)



コーポレートガバナンス体制の整備

- ◆ 2021年6月 監査等委員会設置会社へ移行、指名・報酬委員会設置
- ◆ 2022年6月 取締役を7名(過半数の4名を社外取締役)体制へ移行
- ◆ 2023年6月 女性取締役1名就任(社外取締役)

株主・投資家との対話強化

- ◆ 2024年4月 IR室をサステナブル経営推進室に改称
- ◆ 決算説明会を含め、IR面談・SR面談の実施を拡充
- ◆ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を開示

社会的課題への取り組み(2)

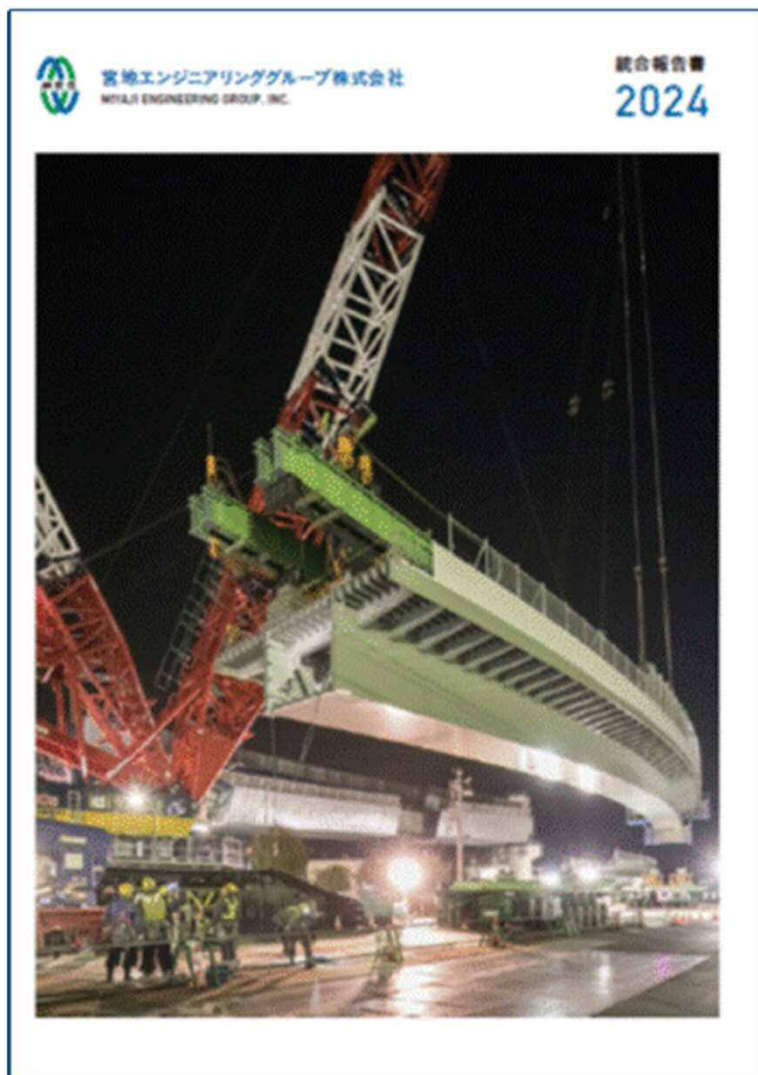
サプライチェーンマネジメントへの取組

- ◆ 昨年開催した宮地エンジニアリンググループ創業115周年・設立20周年記念式典に参列した協力会社の経営幹部が発起人となり、協力会社が当社グループと「共に歩み」「共に成長する」をコンセプトとし、安全・品質のみならず、当社グループのサステナビリティ推進活動などを共有するための組織として「宮栄会(きゅうえいかい)」を結成
- ◆ 当社グループとしてもその主旨に賛同し、相談役や理事として参画するとともに、事務局としてその活動を支援
- ◆ 2024年9月30日に決起集会とも言える宮栄会設立総会を開催



社会的課題への取り組み(3)

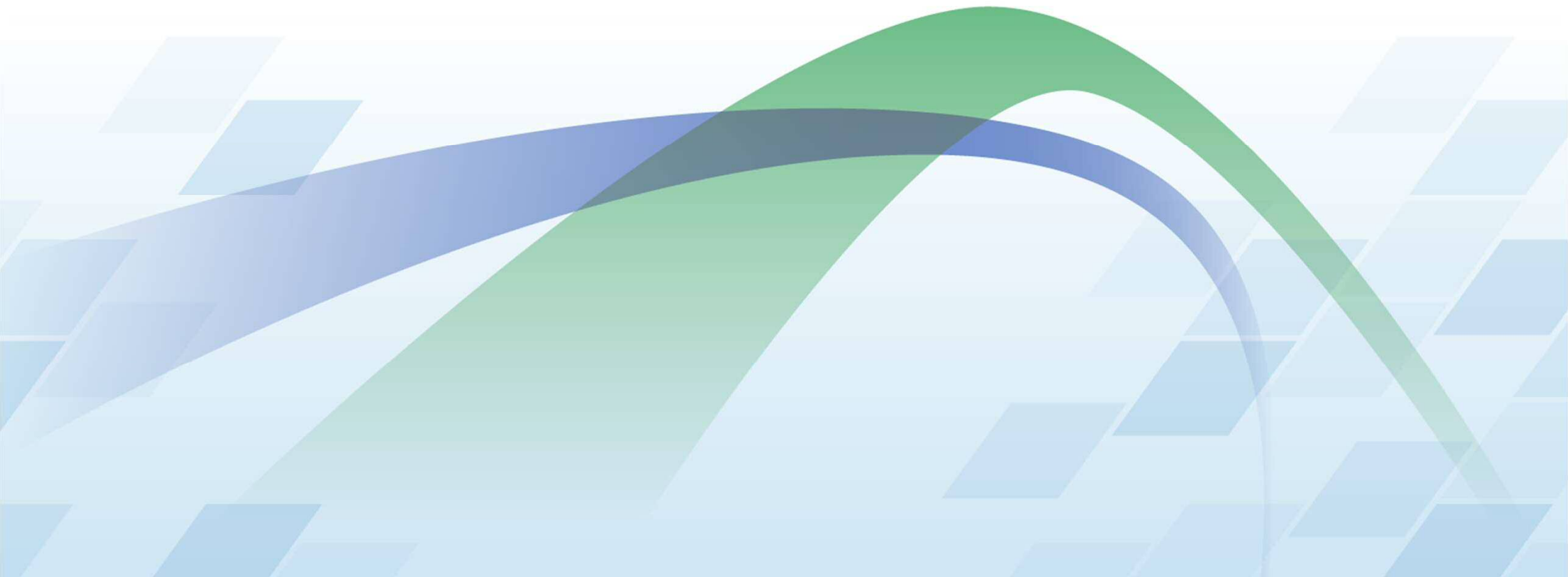
宮地エンジニアリンググループ 統合報告書2024発刊



- ◆昨年度の初版に引き続き、2024年9月30日に統合報告書2024を発刊
- ◆新たにマテリアリティに対するKPIを設定して開示
- ◆機関投資家より要望が多かった事業別の強みや価値創造プロセスについても開示
- ◆社外取締役による座談会や従業員との懇談会を企画
- ◆資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を始めとする財務資本戦略の開示を充実
- ◆GHG排出量に関するScope1・2・3の開示を始めとする気候関連財務情報の開示についても充実



V. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(1)



現状評価(2024/8/7開示時点)

2024年3月期ROE 11.6%

⇒目標とする自己資本比率を55%として見直した配当政策と好調な業績の効果から、中計目標値の10%を上回る

2024年3月末PBR 1.50倍

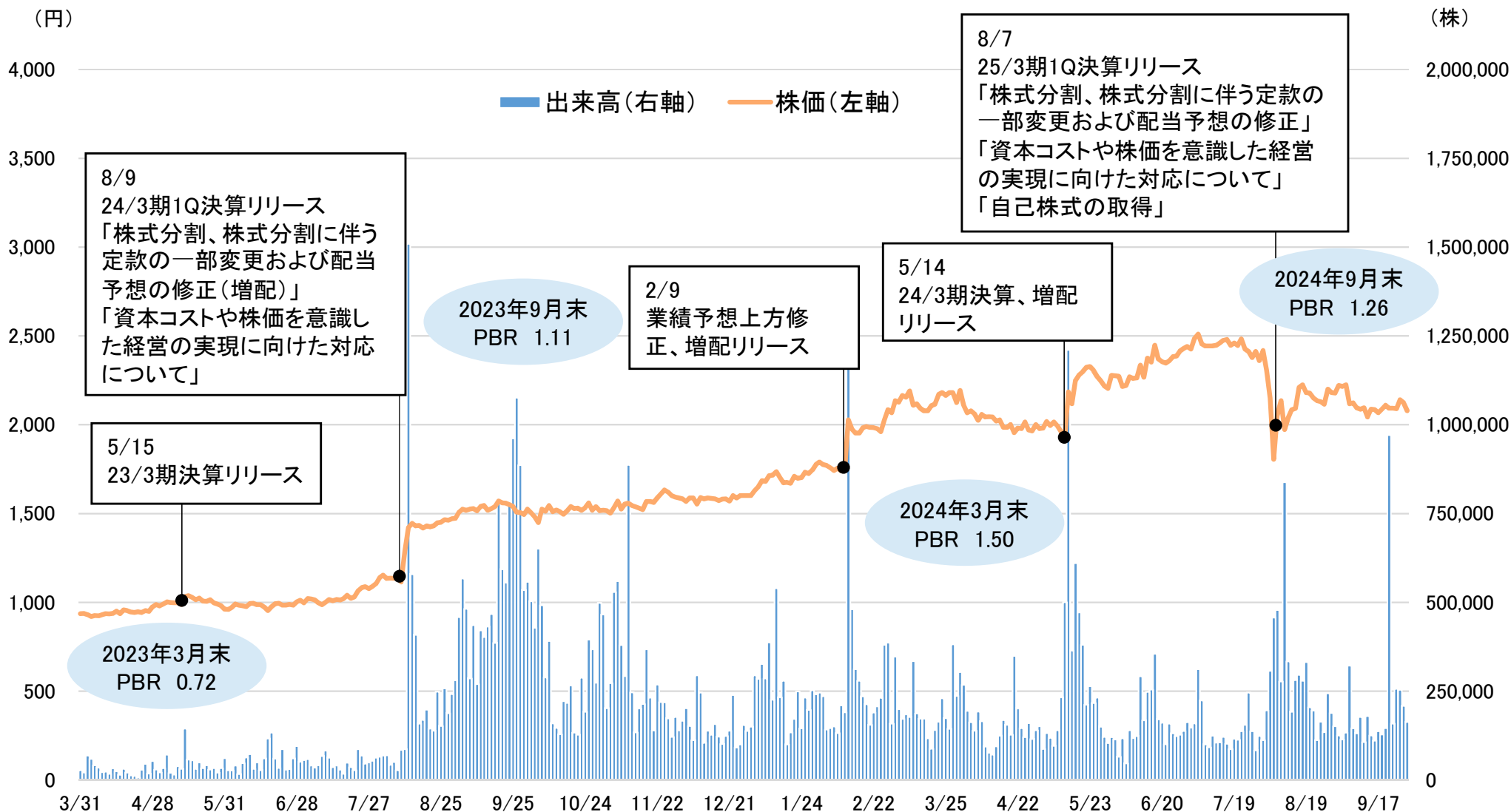
⇒2023年8月9日に公表した「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の取組みを市場から評価頂くよう努力した結果、目標とする1.0倍を上回る

	(百万円)					
	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
売上高	63,841	55,268	58,002	60,279	69,365	73,000
営業利益	5,241	5,501	5,810	5,127	7,904	8,500
親会社株主に帰属する当期純利益	2,616	3,808	3,406	3,077	4,354	4,000
自己資本比率	43.9%	49.7%	54.0%	56.3%	53.6%	目標55%
ROE	10.4%	13.5%	10.7%	8.9%	11.6%	目標10%
1株当たり純資産(円) *	961.62	1,108.03	1,226.84	1,305.09	1,458.95	—
期末株価(円) *	405.0	592.25	865.0	935.0	2,192.5	—
PBR(倍)	0.42	0.53	0.71	0.72	1.50	—

* 2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり純資産・期末株価は分割考慮後に修正

株価動向

株価・出来高推移





(注)2023年10月1日、2024年10月1日にそれぞれ普通株式1株につき2株の割合をもって分割、株価・出来高は分割考慮後に修正

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2)



今後の取り組み

6つの取り組みを通じて、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図り、ROE10%を目標とし、中長期的な持続的成長とさらなる企業価値の向上を目指してまいります

<p>(1)中期経営計画(2022～2026年度)の達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新設橋梁ビッグプロジェクト、高速道路大規模更新工事、民間の高難度工事などに経営資源をバランス良く投入する計画を着実に推進 ◆ 工場生産や現場施工の効率化・適正化のための投資や、新規事業開発と総合エンジニアリング機能強化のために中期経営計画の5年間で総額180～200億円の投資計画を策定し、実施中 	 <p>笠岡バイパス新神島大橋鋼上部工事</p>
<p>(2)積極的なIR活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 決算説明会、1on1ミーティング、見学会などを実施し、投資家の皆様から当社グループへの理解を深めていただくよう努める ◆ 英文サイトを開設し、株主総会招集通知や決算短信をはじめとした適時開示資料の英文開示を実施 ◆ 2023年3月期から作成を開始した統合報告書は、毎年内容を更新 	 <p>2024/10/21 日本経済新聞広告</p>

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(3) 宮地エンジニアリンググループ株式会社

今後の取り組み	
(3) 自己株式取得について	<ul style="list-style-type: none"> ◆ より一層の資本効率向上を図るとともに、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行を可能とするため、350,000株(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合2.6%)の自己株式の取得を実施
(4) 株式分割の実施	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2023年に引き続き、2024年10月1日を効力発生日として当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施
(5) 配当政策の継続 (資本効率を意識した機動的な株主還元の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中期経営計画の目標であるROE10%の達成に向けて、資本効率にも十分留意して自己資本の水準を適切にコントロールする。持続的成長のための成長投資、一定の資本拡充など、バランスの良い資本政策を進めることを基本とする ◆ 事業特性上、事故リスク、自然災害リスクを踏まえ、持続的成長を担保するために必要な自己資本は月商の7カ月分(年間売上高の60%)程度であると考え、目標とする自己資本比率を55%とする ◆ 総還元性向60%を目安として業績に応じた機動的な株主還元を実施し、自己資本の水準を適切にコントロールする
(6) 政策保有株式の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保有意義が不十分であると判断した政策保有株式については保有先企業との対話などを踏まえたうえで縮減する。中期経営計画(2022~2026年度)の期間中に、連結純資産に対する政策保有株式の帳簿価額の割合を10%以下とする方針

株主・投資家との対話の実施状況等について

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の取り組み

対話を行った株主・投資家の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内機関投資家等 SR面談20回、IR面談14回、決算説明会2回、工場見学会5回 ◆ 海外機関投資家等 SR面談3回、IR面談16回
株主・投資家との対話の主な対応者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 代表取締役社長 青田 重利 ◆ 執行役員IR室長 瀬戸井 裕 ◆ 執行役員企画・管理部長 遠藤 彰信 <p>(注)IR室は、2024年4月1日付けでサステナブル経営推進室に改称しております。</p>

株主への説明で理解を得られた事項

- ① 中期経営計画(2022～2026年度)における事業戦略や成長投資計画等
- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2023年8月9日開示)に基づく資本政策の考え方と実施状況
- ③ 統合報告書2023(2023年5月22日公表)に基づく、過去の歴史を踏まえた価値創造プロセスとそれを実現する基盤(経営資源の質と量)

株主との対話で得られた事項や取り入れた事項(前年度までの対話によるものも含む。)

- ① 統合報告書2023の発刊(2023年5月)
- ② 英文開示の開始(2023年5月)
- ③ 女性取締役の登用(2023年6月から7名中1名)
- ④ 総還元性向の見直し(2024年3月期より中計期間中の還元性向の目安を30%から60%へ)
- ⑤ 株式分割の実施(2023年10月実施)
- ⑥ 政策保有株式縮減の加速(2024年3月期に4銘柄縮減)
- ⑦ 役員報酬の開示(2022年3月期より子会社から役員として受けた報酬等の総額を記載)
- ⑧ 定時株主総会招集通知に記載する取締役のスキル・マトリックスの開示開始(2023年3月期より実施)および内容充実(2024年3月期より実施)
- ⑨ 株主総会における電子投票制度および議決権電子行使プラットフォーム採用(2024年3月期定時株主総会より実施)

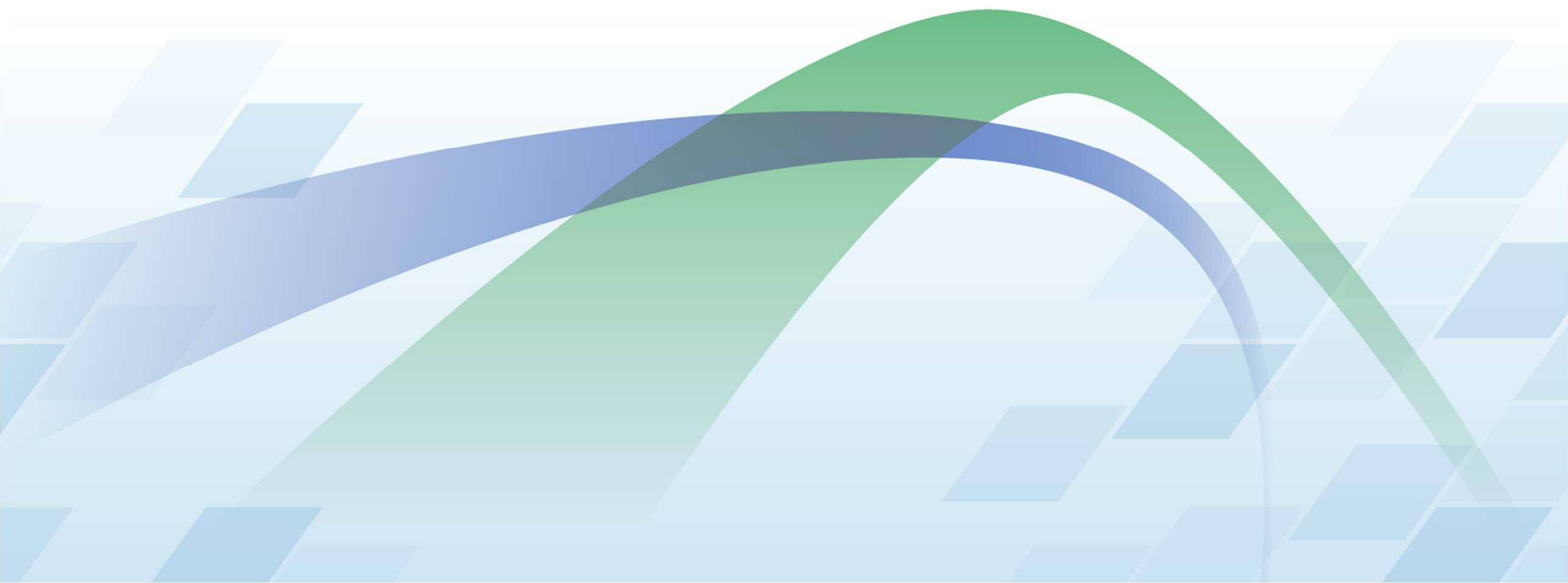
◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

◆ IRに関するお問合せ先

宮地エンジニアリンググループ株式会社
グループ企画管理本部 平岡、遠藤、瀬戸井
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
TEL 03-5649-0111
E-mail meg.IR@miyaji-eng.co.jp

Appendix - 会社概要



<宮地エンジニアリンググループの経営理念>

橋梁、建築、沿岸構造物等の
社会インフラの建設、維持・補修の事業を通じ、
豊かな国土と明るい社会創りに貢献する

宮地エンジニアリンググループについて(2/4)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジは、国土交通省、高速道路会社等の官公庁から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、

その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をする事ができない



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります

宮地エンジニアリンググループについて(3/4)

◆ 主力の新設橋梁事業では、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の江戸橋ジャンクションに始まり、本州と九州を結ぶ関門大橋や明石海峡大橋をはじめとする多くの本州四国連絡橋、東日本大震災復興のシンボルである気仙沼湾横断橋、東京湾でも特に夜景が美しい東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ等、名だたる長大橋の設計・施工技術の実績があります

◆ 新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、

長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼をいただいております

◆ 「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた

高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

宮地エンジニアリンググループについて(4/4)

◆ 今後も継続して

7兆円規模と言われている高速道路のリニューアルプロジェクト、

事業規模5,000億円の大阪湾岸道路西伸部の長大橋梁を始め、

第二関門大橋(下関北九州道路)などの高難度のビッグプロジェクト、

更に、首都圏のターミナル駅の再開発事業、連続立体交差事業や高架化、


特殊建築物の施工および大規模沿岸構造物などが計画されており、

当社グループにとって更なる飛躍への絶好の事業環境と捉えております




会社概要

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 青田 重利
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	693億円 (2024/3期)



宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資(連結)



宮地エンジニアリング株式会社 (MEC)

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、
プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、
工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資(連結)



エム・エムブリッジ株式会社 (MMB)

橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売 および修理

100%出資(非連結)

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、
人材派遣業務、他



事業所および活動拠点



宮地エンジニアリング(株) 松本発電所



宮地エンジニアリング(株)
栗橋機材センター



エム・エムブリッジ(株) 広島機材センター

エム・エムブリッジ(株) 富山事業所

宮地エンジニアリング(株) 兵庫機材センター

エム・エムブリッジ(株) 本社
宮地エンジニアリング(株) 広島営業所

エム・エムブリッジ(株) 長崎事業所

宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所
エム・エムブリッジ(株) 九州営業所

宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所

宮地エンジニアリング(株) 札幌営業所

宮地エンジニアリング(株) 仙台営業所
エム・エムブリッジ(株) 東北営業所

エム・エムブリッジ(株) 那須機材センター



宮地エンジニアリング(株) 千葉工場

エム・エムブリッジ(株) 市原工場

(株) エム・ジーコーポレーション 本社

宮地エンジニアリンググループ(株) 本社

宮地エンジニアリング(株) 本社

エム・エムブリッジ(株) 東日本支店

エム・エムブリッジ(株) 横浜営業所

宮地エンジニアリング(株) 名古屋営業所

エム・エムブリッジ(株) 中部営業所

宮地エンジニアリング(株) 関西支社

エム・エムブリッジ(株) 西日本支店

主なプロジェクト実績(長大橋・道路橋)

■ 過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋(1,068m)

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋(3,991m)

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ(2,618m)

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋(1,480m)

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋(1,344m)

東日本大震災復興の象徴

土木学会「田中賞」

主なプロジェクト実績 (鉄道関連・大空間・特殊建築物・沿岸構造物)



- 高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
- 大空間・特殊建築物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

～1970年代

1980～90年代

2000年代以降

橋梁 (鉄道関連)



東海道新幹線江川橋梁



東海道新幹線箕輪架道橋



東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋

大空間・特殊建築物



東京タワー(333m)



神戸ポートタワー(108m)



バンテリンドームナゴヤ



東京スカイツリー
(634m)



大和ハウスプレミストーム



東京アクアティクスセンター

沿岸構造物



南本牧鋼製ケーソン



東京港海の森トンネル沈埋函

当社グループの強み

大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作

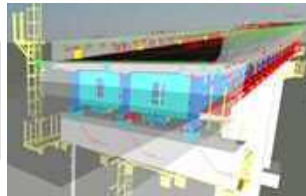
計画・架設

数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に
揃える当社グループ
だからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力
ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を開発



戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量
日本一のアーチ橋を架設した
ケーブルクレーン設備

機材を保有していること
だけでなく
扱える人材の多さと
技術の高さが当社の強み

高技能集団との連携

高度な技術力を有する
特殊職集団との連携は
事業成立に必要不可欠

例) ケーブルクレーン



急峻な山間部等で通常クレーンの侵入が困難な場所で使用



職人の外部ネットワークにより
高度な工事に対応するリソースを確保

自社工場保有が可能とさせる製作能力



海上長大橋の大ブロック製作対応も可能
業界有数の生産能力を保有

当社が建設に参加した巨大構造物 I

本州四国連絡橋



下津井瀬戸大橋



多々羅大橋



来島海峡第二大橋



明石海峡大橋



大鳴門橋



北備讃瀬戸大橋・南備讃瀬戸大橋

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

タワー



東京スカイツリー



東京タワー



福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



大分グローバルタワー

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

ドーム等



エスコンフィールドHOKKAIDO



東京アクアティクスセンター



みずほPayPayドーム福岡



レゾナックドーム大分



キューアンドエースタジアムみやぎ



バンテリンドーム ナゴヤ



ニプロハチ公ドーム



大和ハウスプレミストドーム



日産スタジアム